

第 6 学年 研究のまとめ

	1 指導計画の工夫	2 指導過程及び指導方法の工夫	3 評価の工夫
G 3	○レディネステストで実態を掌握し、必要な部分は単元に入る前に復習をさせて児童がスムーズに学習に入れるようにした。 ○学習の計画単元のまとめの時間を、十分に確保できるよう、指導計画を立てた。 ▲個に応じたの補充学習に取り組む時間が足りず、個別指導が十分にできない場合もあった。	○児童の実態、学びの特性にあわせて、指導過程の内容、構成、時間配分などを工夫した。 ○個別学習の時間を十分に確保し、学習の習熟、定着を図った。 ○目標をスモールステップに分け、つまずきに対応できるようにしてきた。 ▲個人差も大きくなってきており、「自分の考えをまとめてわかりやすく発表する」「話し合って練り合う」などの学習は数多く出来なかった。	○段階をスモールステップに分け、形成的な評価を多く取り入れることで個に応じた支援ができた。 ○単元の学習が終わった後も、宿題等で指導を継続しながら定着を図った。 ▲学習カードや学習感想を書かせるなどの活動の時間はなかなかとれなかった。
G 2	○単元終了後に個に応じた発展学習や補充学習に取り組む時間を設定し、学習内容の定着を図るようにした。 ▲学習事項を習得する力はあるものの確実に定着していない児童が多いという実態を踏まえ、小単元が終わるごとに習熟の時間をできるだけ設定するように計画していたが時間的余裕がなかった。	○教科書をベースとして課題を提示した。 ○色分け、数値変換、単位変換等の工夫により、児童が課題を捉えやすいようにした。 ○解決する時間を十分に確保し、自立解決へと導くようにした。 ▲自分の考えを伝える際、相手に分かりやすい説明ができるまで、もう少し努力を要する児童が見られた。条件を整理して、言葉で説明できる力をさらに伸ばしていく必要がある。	○授業後に、気付いたこと、分かったことを含め感想を書かせて、自分の学びの振り返りをさせ、次の時間へつなげていけるようにした。 ○プリントやテスト、ノート、発表について記録し、累積することで、正確に問題进行处理する力や定着状況进行评估するようにした。 ▲チェックカードは有効活用できなかった。
G 1	○難単元である「単位量あたりの大きさ」で、単元末に選択学習を行った。G 1 の中で発展・補充コースに分かれて学習したので、児童の実態に応じた授業を展開することができ、学習意欲も高めることができた。 ▲単元末の発展学習に取り組ませることはできたが、単位時間ごとに基礎・基本を押さえながら、発展的な内容を加えていくことが難しかった。	○様々な考え方ができる問題に対して、自力解決の時間を確保し、ノートにまとめさせることを続けた。思考力や表現力を高めていく上で、有効であった。 ○G 1 の児童にも十分な操作活動（展開図、立体作りなど）をさせることが、発展的な思考にもつながることが分かった。 ▲学び合いを深めていくためにも、伝える力や自分と友達の考えを比較検討していく力をつけていく必要がる。	○指導と評価の一体化のために、机間指導を重視し、ポイントになる点を確認しながら進めたことは、学習内容の理解と定着につながった。 ○学習事項を適用問題で確認し、さらに宿題で練習させた。宿題の出来具合からも、個々の定着の度合いをみることができた。 ▲学習の感想は、授業時間の中に意図的計画的に取り入れていかないと継続できない。チェックカードも有効に活用するまでに至らなかった。

○ 成 果

▲ 課 題